

当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

共同利用・共同研究課題「地域民族誌の方法論と人類学的空間構想力の可能性の探求」
2013年度第1回研究会（通算第5回）

日時：2013年6月16日（日）13:00～19:00

場所：本郷サテライト7階

1) 伊藤敦規（AA研共同研究員、国立民族学博物館）

「日本における北米先住民研究」

2) 今堀恵美（AA研共同研究員、聖心女子大学）

「ソ連崩壊後の中央アジア民族誌——冷戦の溝は埋まるのか？」

3) 信田敏宏（AA研共同研究員、国立民族学博物館）

「イスラーム世界の周縁、あるいは周縁世界のイスラーム：マレーシア先住民の事例から」

*概要

北米（伊藤氏）、中央アジア（今堀氏）の発表の発表では、当該地域の研究史と地域概念、その地域で調査することの制度的背景と、その地域の政治文化的文脈が影響する研究内容・方向性について報告された。特に北米の場合、アメリカ合衆国、カナダの人類学者との関係で厳しい調査環境と倫理があり、それが現在の研究における調査者と調査地における協働性の問題に影響している。もう一つ中央アジアは旧ソ連圏という政治的背景において、ソ連民族学の遺産と西側人類学の影響、さらに日本のイスラーム地域研究研究が絡み合うなかで今堀氏自身の研究の位置づけが図られた。信田氏の議論は、AA研においてかつて行われた大塚和夫氏に共同研究「ムスリムの生活世界」での議論を踏まえながら、自分自身がフィールドの現場にしながら構想可能な世界の見方＝比較可能な空間的世界はどのような概念となりうるのか提起された。今回はまさに地域民族誌の方法についての知見と、人類学的空間構想力にわかれた発表となった。討論をするなかで代表者が感じたのは、本来、この二つは別々のものではなく、地域民族誌の研究史を踏まえることで、各自が人類学的空間構想力を着想できるということである。このあたりをどう議論していくかは今後の課題であろう。

*各報告要旨

日本における北米先住民研究

伊藤敦規

本発表では、北米（カナダおよび米国本土とアラスカ州）における、日本人による北米先住民研究のレビューを行った。1960年に発足した岡正雄の明治大学アラスカ調査団以降、60年にわたって文化人類学的研究が継続している。研究地域を大別すると、①米国アラスカ州、②極北地域、③北西海岸、④極北、カナダ南部、⑤米国本土となり、10の文化圏分類とは対応していないことが明らかとなった。アフリカやアジアといった他の地域研究に比べた場合、以下が北米先住民研究の特徴となる。研究史が浅いこと、研究者人口が少ないこと、各種展示のための物質文化・アート研究とそれに基づく研究者間交流が促進してきたこと、文化的主権を主張する先住民社会での調査が困難なことなど。また、文化人類学以外でも、歴史学、社会学、法学、言語学などの研究も蓄積されていることを紹介した。最後に、大塚和夫が提示した異文化理解のための類型と照らし合わせながら、北米先住民研究の現在の動向として、研究者だけでなく現地協力者にとっても、調査以前・中・以後のソースコミュニティの人々との情報共有が望まれていることを提示した。

ソ連崩壊後の中央アジア民族誌——冷戦の溝は埋まるのか？

今堀恵美

本発表では、中央アジアの「地域」概念の整理を通じて、ユーラシア大陸の中心に位置する中央アジアが周辺世界に開かれつつも、複雑な言語状況から周縁的位置におかれている状況を提示した。次に中央アジアを扱う民族誌の特徴を時代毎に分類し、ソ連時代にロシア語・民族語で書かれた「ソ連民族学」の特徴を本質主義、自文化研究にあると指摘した。ソ連崩壊後、資本主義圏の人類学者たちが新たなフィールド地として中央アジアに参入する一方、その受入先となった旧ソ連の民族学者たちは資本主義圏で形成された文化人類学理論を部分的に取り入れつつも、旧来の方向性を大きく変更することなく、両者の溝が埋まらない現状について報告した。

イスラーム世界の周縁、あるいは周縁世界のイスラーム：マレーシア先住民の事例から
信田敏宏

本発表ではまず、大塚和夫が代表を務めたAA研共同研究「ムスリムの生活世界——フィールドの視点から」を振り返り、その研究会で大塚より提示された「生活世界」「フィールドの視点」をキー・ワードにした人類学的比較研究の意義を再検討した。そして、本共同研究における「人類学的空間構想力の可能性」を探求する前段階として、「世界」を構想する可能性を示唆した。つまりそれは、「イスラーム世界の周縁」という領域性を持たない観念上の仮想空間という意味での「世界」である。さらに、発表者が目指すマレーシア先住民オラン・アスリのイスラーム改宗についての研究内容を、「イスラーム世界の周縁」で起きている状況や出来事を対象にした人類学研究として位置づけながら、説明した。